



平安だより 2022年3月号 平安幼稚園

「すべての出会いに感謝」 牧師・園長 江間紗綾香

『わたしがあなたがたを愛したように、互いに愛し合いなさい。』
(ヨハネによる福音書一五章一二節)

聖書にはいろいろなことが書かれています。その内容を一言で表わすと「神様からのラブレター」とよく言われています。神様がどんなに私たち人間を愛してくださっているのか、そのことを聖書は教えてくれているということです。たとえ私たちが神様から離れたり、神様が悲しむようなことをしたりしても、愛し続けてくださっているのです。それは、愛する独り子イエスをこの世界へとお遣わしになったことが証明しています。私たちが罪から救われ、神様の子として恵みと平安に満ちた歩みをすることができるようになっていくからです。しかも、神様はただ愛してくださっているだけではありません。私たちに期待もしています。神様から離れてしまっても、神様の呼びかけによって必ず戻ってくることをできると私たちに期待してくださっています。そして、神様が愛してくださったように、互いに愛し合うことができることを期待してくださってもいいのです。聖書には、私たちが互いに愛し合うことができるよう、その方法も書かれています。それは「隣人を自分のように愛する」という方法です。自分が愛されている通りに、隣人である他者を愛すればよいとイエスは教えてくれました。

年長さんは卒園の時を迎えます。年中さん、年少さんとは

お別れです。そして、小学校という新しい生活の場が待っています。幼稚園で出会ったお友達をこれからも大切にして欲しいですし、これから出会うお友達も大切にして欲しいと願っています。何より、いつもそばにいるご家族をたくさん愛して欲しいです。神様から、ご家族から、そして幼稚園の先生たちからたくさん愛されてきた子供たちですから、きつとたくさんの人を愛し、大切にすることができると思っています。年中さんは四月から一番上のお兄さん、お姉さんになります。年少さんも、自分たちより小さなお友達を迎えることとなります。今まで自分たちがお兄さんやお姉さんからもたくさん嬉しかったことを思い出し、新しいお友達と接して欲しいと願っています。年中さんも年少さんも、愛される喜びを十分に知っていますからきつとできるでしょう。ますます子供たちの成長が楽しみです。

今年も新型コロナウイルス感染症対策に気を配りながらの一年となりました。昨年同様、形を変えながらできた行事がある一方、残念ながら中止した行事もありました。先生方と話し合い、子供たちにいろいろな経験をしてみたい、たくさんのお祝いを作りたいと、できる行事については感染対策と工夫を凝らしながら進めてまいりました。コロナ前とまったく同じとはいきませんでした。これをきっかけに行事の在り方を再考し、より良い保育を目指していく所存です。保護者の皆様におかれましてはこの一年、園の保育にご理解、ご協力をいただきましたこと、心より感謝申し上げます。先生方も、保護者の皆様のご協力に助けられ、子供たちの笑顔に励まされたことと思います。四月からもしばらくはコロナウイルスと共に生活せざるを得ないと感じております。ただ、先のことを心配し過ぎるあまり、目の前にいる大切な子供たち、園の精神を見落とすことのないように、祈りつつ一歩一歩進めていきたいと考えております。